

第 17 回研究大会が開催されました

■大会開催報告

2018 年 6 月 23 日（土）に中央大学多摩キャンパスにて、第 17 回研究大会を開催しました。午前のプログラムでは、基調講演として「経済学から見た図書館 ―図書館の役割と価値を見直す―」をテーマに一般社団法人情報科学技術協会会長の山崎久道氏にご講演をいただいた。午後のプログラムでは「学習支援のネクストステージ」をテーマとしたシンポジウムの開催、並びに 6 件のポスター発表が行われました。参加者数は、参加者数は、正会員 33 名、非会員 13 名（但し、パネリスト等の 4 名を含む）、学生会員 1 名、非会員学生 7 名の合計 54 名でした。

開会に先立ち、中山伸一会長から挨拶とプログラムのご紹介をいただきました。

午前は「経済学から見た図書館 ―図書館の役割と価値を見直す―」というテーマで山崎久道氏による基調講演を行いました。山崎氏からは、経済学の本質は「有効な資源を、どう分配するのがもっとも合理的なのかを追求する学問」であり、公共図書館への財源配分の優先順位が高くないことに対しての有効な反論ができていないのは、「国民経済の中の図書館の位置づけ」や「社会的共通資本としての図書館のあり方」といった経済学的な視点、特にマクロ的視点が少なかったからではという問題提起がありました。

海外でのマクロ経済学の視点での研究について量的・質的の 2 つの観点からの紹介がありました。まず、量的な指標として「Return on investment(ROI・投資利益率)」を用いた研究事例を挙げられました。公共図書館の場合は利用者の受ける便益や社会に与える恩恵を利益と考えて、投下資本に対する倍率を計算しており、アメリカの公共図書館の事例ではウィスコンシン州の公共図書館では ROI は 4.06 倍、ミネソタ州の事例では ROI は 4.62 倍となっており、図書館への 1 ドルの投資が社会に 4～5 倍の便益となって還元される事実について言及されました。次に図書館の制度的側面や社会学的枠組みといった質的成果の指標も重要であることも言及され、「社会的共通資本 (Social Overhead Capital)」の考えも重要であると指摘されました。

最後に図書館の価値を考えるとときに大事なものは「利用者に対する価値（ミクロ的価値）と社会全体に対する価値（マクロ的価値）」の双方に着目することであり、わが国の図書館情報学でもこうした分野の研究や調査が進むことを期待したいとの抱負を述べて締めくくられました。経済学的視点で図書館を論じる必要性について初学者にもわかりやすく様々な事例を挙げながらのご講演であり、非常に有意義な基調講演となりました。

基調講演の後に 2018 年度総会が開催されました。詳細についてはニューズレターの「報告：総会の決定から」をご覧ください。

午後は「学習支援のネクストステージ」をテーマに岡部晋典氏（愛知淑徳大学人間情報学部講師）をコーディネーターに，上岡真紀子氏（帝京大学学修・研究支援センター教員），須賀井理香氏（東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫係長），浜島幸司（同志社大学学習支援・教育開発センター准教授）の3名をパネリストに迎え，「整いつつある，学習支援環境で，図書館員あるいは学習支援者は，どのように学習支援の理路を組み立てたらよいだろうか？」「学習支援者に求められるスキルはどのようなものか．その際，従来の職制と異なってくる部分について，どうクリアするか（クリアできていないか）」を中心的な問いとしたシンポジウムを開催しました．

まず，パネリストの3名からラーニング・コモンズについて，上岡氏は「図書館と図書館員は教授・学習支援にどのように関わっていくか」，次の須賀井氏は「東京大学における学術情報リテラシー教育を通じた学習支援」，浜島氏は「学習支援者の現状と今後：実践者および研究対象の視点から」と題したご発表をいただきました．続いて岡部氏の進行のもと，「ラーニング・コモンズの担当者が専門性を身につけるためにはどのようにすればよいのか」，「全学の教員との連携」，「任期制雇用が多い現状と職員のキャリアアップ」などを論点としてディスカッションが行われました．会場からも様々な質問が寄せられ，シンポジウムを通じてラーニング・コモンズについての現状や課題が可視化されたことは大きな収穫でした．

シンポジウム終了後に行われたポスター発表では，6件の発表があり，ライトニングトーク（口頭発表），ポスターを囲んでの意見交換，会員の投票による最優秀ポスター発表の選出と表彰が行われました．

ポスター発表者によるライトニングトークでは，岡野裕行氏（皇學館大学）による「ウィキペディアタウンが示すもの」，森屋裕治氏（名古屋女子大学短期大学部）による「「情報学」を授業内容とした講義科目における，アクティブラーニングの実践報告」，小松幸男氏，益子大輝氏，植村八潮氏，野口武悟氏（以上専修大学）による「音声ガイド付き DVD のアクセシビリティー操作インタフェースの問題点を中心に」，下山佳那子氏，赤山みほ氏，野口久美子氏（以上八洲学園大学）による「大学はどのような司書を養成しているかー司書像と養成選択科目の調査ー」，小山憲司氏（中央大学）による「「研究論文と有料の壁」の語られ方とその実際」，吉川次郎氏，高久雅生氏（以上筑波大学）による「英語版 Wikipedia における DOI リンクの初出時点の分析：研究分野を中心に」の発表が行われました．

その後，ポスター掲示コーナーにて，発表者と発表者の自由な意見交換の場が設けられ，発表に関する活発なやりとりが交わされました．参加者の投票により最優秀発表には吉川

次郎氏、高久雅生氏（以上筑波大学）による「英語版 Wikipedia における DOI リンクの初出時点の分析: 研究分野を中心に」が選出され、植村八潮新会長より表彰が行われました。また、閉会挨拶では、植村八潮新会長に新会長としての抱負を述べていただきました。

■プログラム概要

10:00 受付開始

10:30 開会挨拶

10:35 基調講演

「経済学から見た図書館 ―図書館の役割と価値を見直す―

山崎久道氏（元中央大学教授、中央大学社会科学研究所客員研究員、
一般社団法人情報科学技術協会会長）

12:00 総会，昼食

13:30 シンポジウム

「学習支援のネクストステージ」

コーディネーター：岡部 晋典 氏（愛知淑徳大学）

パネリスト：上岡真紀子 氏（帝京大学）

須賀井理香 氏（東京大学大学院 法学政治学研究科附属

近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫）

浜島幸司 氏（同志社大学）

15:45 ポスターライトニングトーク

16:45 ポスターディスカッション

17:30 表彰式，閉会挨拶

■ポスター発表

1. ウィキペディアタウンが示すもの

岡野裕行（皇學館大学）

2. 「情報学」を授業内容とした講義科目における、アクティブラーニングの実践報告

森屋裕治（名古屋女子大学短期大学部）

3. 音声ガイド付き DVD のアクセシビリティ ―操作インターフェースの問題点を中心に

小松幸男・益子大輝（専修大学学部生），

植村八潮・野口武悟（専修大学）

4.大学はどのような司書を養成しているか—司書像と養成選択科目の調査—

下山佳那子（八洲学園大学），赤山みほ（八洲学園大学），野口久美子（八洲学園大学）

5.「研究論文と有料の壁」の語られ方とその実際

小山憲司（中央大学）

6.英語版 Wikipedia における DOI リンクの初出時点の分析: 研究分野を中心に

吉川次郎（筑波大学大学院），高久雅生（筑波大学）

* 発表資料について

パネルディスカッション，ポスター発表について，発表者の予稿を掲載した「情報メディア学会第17回研究大会発表資料」を当日参加者に配付しました。残部がありますので，ご希望の方は事務局にお申し込みください。代金1,000円（他に送料を加算）は，発表資料送付時に同封する郵便振込票にてお支払い込みください。

また，第17回研究大会のポスター発表予稿集原稿は学会ウェブページで公開をしています。

■ おわりに

この大会の企画と準備は，以下の会員をメンバーとする大会企画委員会が中心となって行われました。これらの方々の多大のご尽力に感謝致します。

[大会企画委員会]

委員長	小山 憲司	中央大学
委員	天野 晃	国立研究開発法人 物質・材料研究機構
委員	石川 敬史	十文字学園女子大学
委員	岡部 晋典	愛知淑徳大学
委員	佐藤 翔	同志社大学
委員	千 錫烈	関東学院大学
委員	角田 裕之	鶴見大学
委員	中林 幸子	四国大学
委員	長谷川幸代	跡見学園女子大学
委員	藤平 俊哉	科学技術振興機構

最優秀ポスター発表受賞者インタビュー

英語版 Wikipedia における DOI リンクの初出時点の分析：研究分野を中心に

©吉川次郎（筑波大学大学院），高久雅生（筑波大学）

Q1. 最優秀ポスター発表受賞おめでとうございます。

受賞について一言お願いいたします。

吉川氏：「この度は、このような賞を頂き、大変光栄です。常日頃より、ご指導・ご支援いただいている皆様に感謝を申し上げますとともに、研究内容に関心を寄せてくださった皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。」

Q2. どういった経緯で今回の研究を行うことになったのでしょうか？

吉川氏：「今回の研究は、英語版 Wikipedia 上において（DOI リンクを通じて）参照されている学術文献を対象に分析を行なったものです。実は、このテーマ自体は大学院進学当時から継続しているもので、修士論文の延長線上に位置づけられます。当初、（他大学から現研究科に進学して）興味関心は複数あるものの、一向に研究テーマが決まらずに悩んでいたある日、「どうして Wikipedia に学術文献の参照がこんなにたくさん存在するのか？」と疑問に思ったことが発端です。今回の研究では、後述する「初出時点」に着目した分析を行ないましたが、我々のこれまでの研究を含めて、Wikipedia 上の学術文献の参照記述を分析するとき、個々の参照記述が「いつ追加されたのか」に着目した研究はほとんど存在しないため、この点に着目した分析を行なうことで新たに明らかになることがあるのではないかと考えています。必要なデータを収集し、分析を試みるなかで「一度、内容をまとめて、発表しましょう」と高久先生からご提案をいただいたこともあり、今回の発表に至りました。」

Q3. ポスター発表の研究の概要について教えて下さい。

吉川氏：「英語版 Wikipedia のページに、（DOI リンクを通じて）ある学術文献の参照記述が初めて追加されたタイミングを「初出時点」として捉え、その経年的な件数の変化を概観するとともに、研究分野ごとの参照状況を分析しました。対象は、2017年3月時点の英語版 Wikipedia 上で参照されており、なおかつ、Scopus 収録雑誌の論文に対する参照記述（約 100 万件）です。これらの参照記述すべてについて、「何年頃に追加されたか?」、「近年になるにつれて参照記述の追加が盛んになっているかどうか?」、「どの研究分野の雑誌が、どれくらい参照

されているのか？」の3点の分析を行ないました（ポスターは <https://speakerdeck.com/corgies/jsims2018> にて公開していますので、是非ご覧ください。）」

Q4. デザイン面などで工夫した点を教えてください。

吉川氏：「なるべく目につくように、色使いを少し派手にすることを意識しました。図表が多くてゴチャゴチャしていますが、配置と余白も少し意識しました。その他、工夫ではないかもしれませんが、自分の作ったポスターだとすぐに分かるように「コーギー（犬種）」のアイコンを載せる試みを数年前から続けています（大好きな犬種だからです。）」

Q5. ポスター制作にあたっての苦労話やエピソードなどありましたら、教えてください。

吉川氏：「苦労話は、ポスターを制作していた当時の Mac 版 PowerPoint のアップデートを適用すると、PDF エクスポート時に一部要素の表示がおかしくなる問題に嵌ったことが挙げられます。バージョンを下げることで問題は解消しましたが、「大事なタイミングで安易にアプリケーションの更新を適用することは危険が伴う」と学びました……。予稿論文の執筆を含めても良いのであれば、(提供テンプレートが Word 版のみだったので) LaTeX で執筆するための諸準備が最も苦労した点でしょうか。」

Q6. ポスター発表時の会場の人からの反応はいかがでしたでしょうか？

吉川氏：「想像していたよりも遥かに多くの人々に関心を寄せていただき、様々なご意見やご助言を賜ることができ、本当にありがたかったです。構築したデータセットのサンプルをポスター内容に含めていたおかげで、「この要素で分析すると面白い結果になるのではないか?」、「こんな可能性もあるのではないか?」などの意見交換が行なえたことも収穫でした。その一方で、「学位論文の核となる研究であるという前提で見た場合には、まだまだ戦略が足りない」など長期的な視点で考えるべき問題のご指摘もあり、非常に充実した場でした。過去のポスター発表の経験では、「なんだかよく分かりませんが、難しそうな内容ですね」、「Wikipedia のことは分からないので、コメントできません」などのコメントをいただく機会が多かったので、「興味のある人が少ないのか、研究発表の仕方が拙いのか、その両方か」とネガティブに捉えていました。しかし、今回、多くの人々に関心を抱いていただけただけという確かな手応えと、受賞という貴重な経験が得られたことは、私にとって大きな励みとなっています。」

Q6. ポスター発表の論文発表のご予定はありますか？

吉川氏：「今回のポスター発表は、現在進行中の研究内容の一部ですので、原著論文として投稿するための検討を進めています。今回の発表内容に限らず、「情報メディア研究」に投稿できるような素晴らしい論文を書けるように日々精進していく所存ですので、今後とも何卒よろしく願いいたします。」